

令和7年度 千葉県における「さわら千葉県海域」に係る資源管理協定の取組の効果の検証結果（中間）

（1）千葉県におけるサワラの漁業実態

千葉県におけるサワラは、銚子沖から内房海域にかけて漁獲があり、漁法は主に定置網漁業やまき網漁業、つり漁業となっている。海面漁業生産統計によると、直近年では、全国の漁獲量約9,500トンに対し、千葉県の漁獲量は約100トンとなっている。

（2）資源管理の目標及び目標達成のための具体的な取組

目標（千葉県資源管理方針に定める資源管理の方向性）

当面の間、年間漁獲量を直近5年間（平成28年から令和2年まで）の平均値（323トン）程度に維持し、資源の持続的な利用を図る。

該当する資源管理協定

「さわら千葉県海域」に係る資源管理協定（以下、協定という。）は、下表のとおりで、1漁協所属の約15名がサワラを対象とした協定に参加しており、このうち本検証の対象となるのは、1協定となっている。

協定	備考
銚子市	

本検証の対象協定

自主的取組

銚子市漁協のつり漁業では、休漁日を設ける取組を行っている。資源管理の取組は当該協議会で協議決定の上、実践している。

漁業の種類	資源管理の取組	取組の内容	備考
つり漁業	休漁日の設定	銚子魚市場の休業日は休漁日とする。	

協定に記載されている取組

（3）資源管理の取組状況

本県におけるサワラの漁獲量は年変動が大きく、2003年以降に増加傾向となり、2011年に487トン記録したが、その後は400トン前後の高水準と100～200トン前後の低水準の範囲で変動しており、2024年は92トンで資源管理の目標において維持するとして平成28年（2016年）から令和2年（2020年）の漁獲量の平均値を下回っていた（図）、（図1）。一方、協定参加者による検証（以下、「自己点検」という。）では、漁獲努力量は維持と判断されている中、漁獲量及びCPUE（単位努力量あたり漁獲量）は維持と判断されている。また、魚価は上昇していると判断されている。

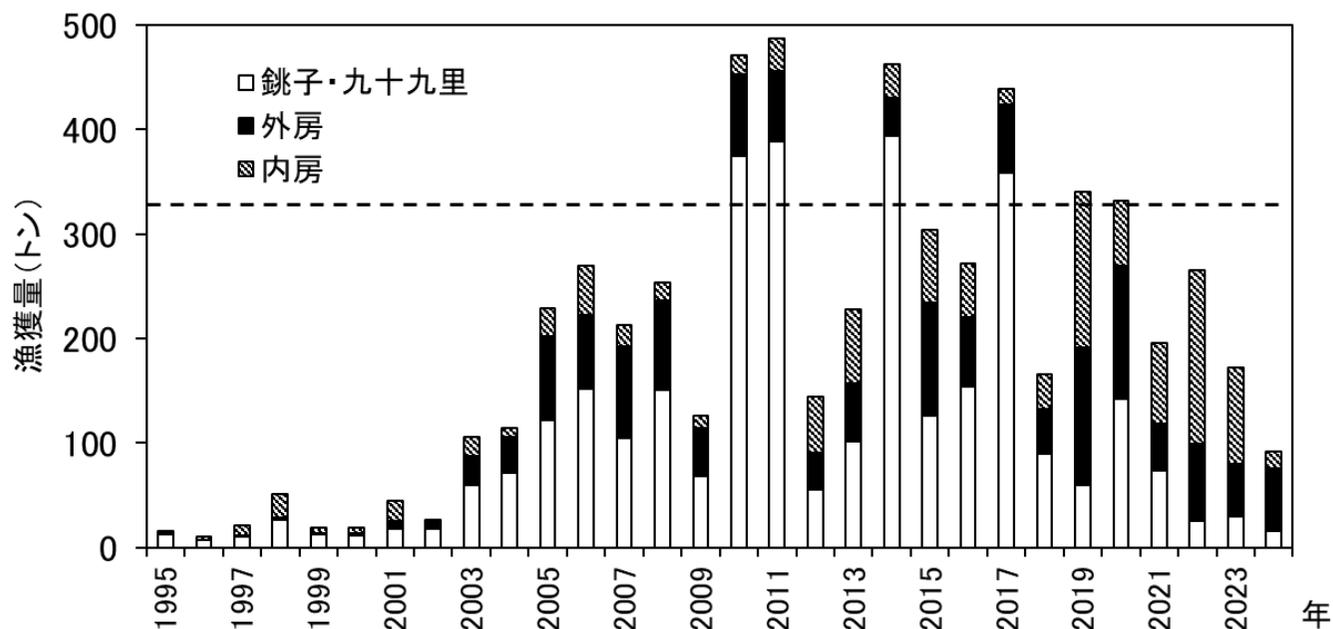


図 本県主要漁協におけるサワラ漁獲量の経年変化 (棒グラフ) 及び資源管理の目標とした漁獲量 (点線) の比較 (千葉県調べ)

(4) 資源管理の効果を高めるための協定の改善・高度化の検討

サワラについては休漁日の設定が実施され、自己点検では全協定で漁獲努力量が維持されているものの、直近年の漁獲量は資源管理の目標を下回っていた。当該魚種が県を跨いで広域を回遊することや漁場への来遊が海況の影響を受けるといった特徴を持っていることを踏まえると、漁獲量が資源管理の目標を下回ったことや変動が激しいことについては海況が要因となっている可能性は否定できない。

一方で、自己点検では漁獲量及び CPUE が維持されていることから、「取組の効果を感じる」とされた。県全体での漁獲状況も踏まえると、協定参加者が利用する漁場への来遊量については海況の影響により安定し、漁獲努力量を維持しながら資源を有効利用出来ていると考えられる。

このため、今後も資源の有効利用を図るためには、現在の取組を継続していくとともに、今後の海況を始めとする海洋環境の変化や資源状況を注視し、状況に応じた対応を検討していくことが重要と考えられる。